

クロード・モネ 1840-1926

吉田 真人

上野の国立西洋美術館で開催されていた『モネ 睡蓮のとき』を見た。混雑しているという報道であったが、入場券を事前にネットで買い、また金曜日の午後5時位であったためか（金、土は午後9時まで開館）きわめてスムーズに入場できた。パリのマルモッタン・モネ美術館の所蔵作品50点と、国立西洋美術館や日本各地に所蔵される作品を加えた、計64点が展示されている。〈モネの睡蓮〉が日本において一堂に会する機会としては、過去最大規模という触れ込みである。

なるほど沢山描いたな、という印象であるが驚きはない。今まで世界の各所でモネの絵を見ているせいか、あるいは加齢により感受性が衰えているのか。唯一、幾つかの絵に「The Japanese Bridge」と名付けてあるのが引っかかる。

50年近く昔、初めての米国出張の折り、ニューヨークのMoMAを訪れた。ある部屋に入ると正面にピカソの『ゲルニカ』が目に入る。この絵がここにあったのかと驚くとともに、大きさにもびっくり、圧倒される。ふと横の壁を見ると『The Japanese Footbridge』という題の、不思議な魅力を持った絵がある。晩年のモネの作品で、色彩が素晴らしい、というより視力を失いかけたからだろうかややハチャメチャだ。ピカソの社会的な絵の隣で、超個人的なモネの絵が、なんとも魅力的で見入ってしまった。

なおゲルニカは1981年にスペインに返還され、MoMAにはもうない。

パリのオランジェリー美術館の『睡蓮』を見たのは、40年前になる。2つの円形展示室に大きく長い睡蓮の絵が各々に4枚ずつ展示されている、というか部屋を取り囲んでいる。部屋の真ん中に佇むと、あるいは楕円の大きな椅子に座って眺めると、睡蓮の池のただ中にいる気分が味わえる。ほかに客はほとんどなく、まさに睡蓮の独占である。

幸い両美術館共に当時は混雑なく、ゆっくり見ることが出来た。現在ではとてもこの様なわけにはいかないだろう。

(3月13日)



MoMA ピカソ『ゲルニカ』1937年 H349.3cm W776.6cm



MoMA The Japanese Footbridge 1920-22年 H89.5cm W115.3cm
La Passerelle Japonaise



オランジェリー美術館 Les Nymphéas 1914-1926年 H220cm W1700cm